

# THE CHOPPER

ザ・チョッパー



STUDIO TAC CREATIVE





# RUBY

Built for Brightness SPECIAL MADE CHOPPERS

輝きのために

すべてのパーツが渾然一体となった究極のフォルムとは、  
一体どのようなものだろうか。  
美しいチョッパーに仕上げるためには、  
フレームを核とした車体バランスが最も重要視される。  
そしてイメージしたスタイルをリアルに具現化するため  
一つ一つのパーツを丁寧に製作してゆく。  
“ルビー”と名付けられたこのチョッパーも  
ビルダーだけが見ることを許された幻影を忠実に  
カタチにした唯一無二のバイクである。



# 丹念に磨き上げられた光りかがやく一粒の宝石

流麗なカーブと大胆なストレートが見事に競演する、気品溢れるチョッパーだ。日の光を浴びて艶やかに輝くティアドロップタンクは、熟練の職人が丁寧に磨き上げた宝石のようである。トップチューブを覆い隠すほどにストレッチされた造型もまた見事。その取り具合を見れば、ダウンチューブを6インチ、トップチューブを3インチストレッチされたオリジナルフレームのためだけに生み出された逸品であることがよく分かる。

オリジナルフレームとナローズプリングアーフの均整も素晴らしく、独特な優雅さを醸し出している。スリムにまとめたフロント周りとの違い、リアには極太タイヤをチョイスし可能な限りのローダウンを実施。エンジンと地面のクリアランスもギリギリまで詰められている。この軽快感溢れるフロントとマッチョなリア周りのアンバランスさも実に魅力的。無論、シンプルな極みとも言えるハンドル周りやシート造型に至るまで、ビルダーのセンスと心配りが随所に活かされている。

ブレーキシステムのセットアップ方法も絶妙で、キャリパーの存在感を押さえつつ、ストッピングパワーを得るといふ難題をクリアしている。

マフラーはドラッグパイプのワンオフ物を選択。スラッシュカットされたエンド部分が、しっかりとスイングアーム下部のラインをなぞるといふ、きめ細かな配慮がなされている。

またテールライトにはLEDを、シート脇にダコタデジタル製スピードメーターをマウントするなど、ルックスのみならず、機能的な部分にも最先端のハイテックパーツが盛り込まれており、さり気なく個性をアピールしている。

エンジンはあえてストックとしながらも、美しさの限界に挑戦したトライジャのルビー。まだ日本では数少ない、本格的なハイテック系チョッパーだが、その秀逸な仕上がりには誰もがため息をつかずにはいられないだろう。



## TECH CHART

Owner	MR. K	Rake	40 DEGREES
<b>General</b>		Stretch	6"
Fabrication	TRIJYA	Shocks	H-D
Year/Make	'02	<b>Accessories</b>	
Model	EVOLUTION SOFTAIL	Handlebar	TRIJYA
Assembly		Riser	TRIJYA
Time	SIX MONTHS	Handlebar controls	TRIJYA/PM
Chroming		Gas tank	TRIJYA
<b>Engine</b>		Oil tank	TRIJYA
Year	'94	Seat	TRIJYA
Builder	H-D	Fenders	TRIJYA
Displacement	1,340cc	Headlight	KIJIMA
Cam	H-D	Taillight	TRIJYA LED
Carb	SU	Speedo	DAKOTA
Pipes	TRIJYA	Pegs	PERFORMANCE MACHINE
<b>Transmission</b>		Foot controls	PERFORMANCE MACHINE
Year/Make	'94	Mirrors	PAUL YAFFE
<b>Painting</b>		Grips	TRIJYA
Molding	GT PAINT	<b>Front end</b>	
Painter	GORGE PEOPLE, MR. TANIGUCHI	Type	16"-OVER NARROW SPRINGER
Color	RED	Builder	ONE MAKE
Type	HOUSE OF KOLOR	<b>Wheels</b>	
Special paint	RUBY	Make	
<b>Frame</b>		Size	F.2.15-21" R.9-18"
Year/Make	'02	Tires	F.90-21 R.250
Type	SOFTAIL	Brakes	F.I.S.R R.G.M.A



# RUBY



## 構 想 集 団

PRODUCED BY TRIJYA

COLLABORATED WITH PROFESSIONALS

We have started to the 2nd stage.

"MORE" is the word.

More Quarity, More Technique, More Safety...

and

Much More.

Ask us about anything.

You may find out how good we are !

# www.trijya.com

i-mode...www.trijya.com/hp/i.html

STOM MOTORCYCLES

# TRIJYA

パンフレットご希望の方は連絡ください

り付けには別途工賃が必要となります。車種により異なりますのでご連絡ください。車輛カスタムにつきましてはショー及びドレスアップを目的としております。一般公道での走行不可な部品や車検等に対応しない場合、ご本人の承諾の上販売するものとし、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

See you next time.

各種ローン取扱年利4.8~3.9% (最長60回)

業者様へ...カスタムパーツ製作・輸入・業販致します。お気軽にお問合せ下さい。

TEL.0729-70-3110 FAX.0729-72-6114

大阪府柏原市大泉 3-11-17 OPEN.AM10:00 → CLOSE.PM6:00 WED,THU  
L.A.OFFICE HAWTHORN, CA 90250 U.S.A.



shiyuki Okamoto 岡本佳之氏



トライジャの代表である岡本氏は、銀行員という職業を経てデザイナーとして独立。現在もデザイナー業を続けるかたわら、その一分野としてカスタムバイクをプロデュースするトライジャをオープン。以降、日本に限らず海外のパーツ、ビジネスと様々な分野に目を向け斬新なカスタムを創造している。



TRIJA トライジャ  
大阪府柏原市大黒3-11-17  
時間:10:00~20:00 定休日:水  
729-70-3110  
<http://www.trija.com>

## チョッパーとは…。まだまだ勉強中の身です

デザイナーとしてチョッパー製作に携わり、そこで1台のバイクをデザインしプロデュースするというスタイルを貫く岡本氏は、一体チョッパーに対し何を感じ、その先に見据えているのだろうか。

「チョッパーですか……。実はボクがバイクに乗ろうと思ったのが、今から10年くらい前なんですよね。だから、チョッパースタイルの定義や、最近耳にするオールドスクールとニュースクールの違いも、実際には良く解らないんです。これがチョッパーについて口を開いた、トライジャの代表を勤める岡本氏の答え。そして「バイクに興味を持ち始めたのが90年代じゃないですか。だから70~80年代の流行っているのは、ボクにとっては過去の物になってしまうんです。それにチョッパーなんてもっと歴史が古いものでしょ。実際に見てきたわけじゃないから、そんなボクがチョッパーについて偉そうに語れませんよ」と、とてもバイクショップとは思えない回答が返ってきたのである。

岡本氏はデザイナーという本業を持ちつつ、一つの分野としてトライジャを設立し、そこでバイクをデザインしプロデュースするという風変わったショップを運営する。若くから鉄工所などの技術工や、クルマ/バイクショップなどに携わってきたビルダーが多くを占めるハーレー業界でいえば、まったく違う道りを歩んできていることになるのだ。こうしたスタンスから、カスタム、スタイル、ブーム、ビジネスなど、ハーレーを取り巻くあらゆる要素を斬新な視点で見つめ、独自の解釈で吸収している。そして、歴史が浅いという経緯も含めて考えれば、岡本氏の“知らない物は知らない”という言葉は、かえって好感触に感じることができるだろう。「そもそもチョッパーというものにガツンと来たわけじゃなくて、バット・ケネディさんが作ったバイクにガツンと来たんですよ。バイクなのになんでこんなにスゴいの？ なんでこんな塗装しているの？ マフラーはなんでギザギザな

の？ って。チョッパーということより、デザインに惹かれたのがそもそもなんです。それとチョッパーというのは不良の乗り物っていうイメージでしょ。カスタムパーツも今ほど豊富じゃなくて、お金のない人達がノーマルパーツを切ったり張ったりしていた貧困時代に産まれたバイクだし。でも僕らは、あくまでもお金を出してくれるお客様がいて、そのオーダーをもとにパーツやワンオフを組み合わせで作るでしょ。だからチョッパーではなくカスタムバイクだと思うんですよ」ときっぱり話す岡本氏は、こうも話してくれた「綺麗なバイクを作る。これがトライジャのスタイルなんです」と。トライジャといえば、海外のパーツメーカーやカスタムショップとの交流が盛んなショップ。最近になって日本でも人気の高まってきた“ハイテク・チョッパー”と称される、美しいデザイン&パーツを身に纏ったカスタムジャンルに着目し、いち早く製作に取りかかってきたことでも有名だ。

歴史の浅さを自らも察しまだまだ勉強中ですよという低姿勢を持つ岡本氏は、「例えばボクはこのパーツが良いとお客様に言いますよね。でも、他のところでもっと良い物があったって言われれば、興味がありますから“一緒に見ましょう」と、他のバイク屋さんでも平気で足を運びますし」という。遅咲きだったバイク業界だからこそ、凝り固まった固定概念が無く、探求心も大きく感じることができるのだ。

そしてインタビューも終演を迎える頃、岡本氏がボツリと呟いた。「チョッパーについていろいろ話しましたが、ボクが難しく考えているだけかも知れませんね……。ウチのバイクを見てくれる皆さんが、チョッパーだとストレートに受け止めてくれれば、それでいいんだと思いますよ」と。